

2019年2月20日

## 森ビルと、AIを活用したビルオートメーションシステム向け セキュリティ技術の実証実験を開始、技術開発を加速 サイバーセキュリティ技術認知のため、ビジネスショールームを開設

パナソニック株式会社(以下、パナソニック)は、森ビル株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:辻 慎吾、以下、森ビル)とビルオートメーション(BA)システム向けのセキュリティ技術について既設ビルでの実証実験を1月末から開始し、本技術の開発を加速します。また、サイバーセキュリティ技術の認知拡大のため、東京(汐留浜離宮ビル内)にパートナー様向けにショールームを開設しました。

昨今、ビル設備の多くはBAシステムによるネットワークを利用した集中制御がなされており、省エネや管理の省力化、居住快適性の向上に役立てられています。しかし、BAシステムにはIP(Internet Protocol)を利用したオープンな規格のプロトコルが用いられることが増えてきたため、多くのITシステムと同様、サイバー攻撃にさらされる危険性が高まっています。

この脅威に対抗するため、パナソニックは森ビルとBAシステムで主流のプロトコルであるBACnet/IP(Building Automation and Control Networking protocol)による通信を監視し、AI(機械学習)により普段の通信を学習することで異常を検知する技術の開発を進めています。開発中の技術は、制御コマンドのバイト列の異常性や送受信される制御コマンド順序の異常性など、送受信されるパケットから様々なタイプの異常性を判定する複数のアルゴリズムから構成され、過去に出現した例がない未知の攻撃に対しても異常性を判定することが可能です。

既に技術研究組合制御システムセキュリティセンター(CSSC)(※1)の実験設備において、本技術の有効性が確認されており、この度の実証実験開始に至りました。

なお、本技術については、制御システムセキュリティにおける世界最大級の会議であるS4x19(※2)にて発表しました。

また、開設したショールームでは、サイバーセキュリティ技術の紹介やシステム監視のデモを行い、技術の認知拡大を図って参ります。今後もパナソニックは、大学を含む研究機関やパートナー企業との連携を通じて、IoTサイバーセキュリティの技術力の強化を行なって参ります。そしてIoT時代における安心・安全な社会の実現に貢献していくことを目指します。

※1:発電所やガスプラントなど、重要インフラの制御システムに対するサイバー攻撃への対策のため国際標準化活動、認証、人材育成、普及啓発、各システムのセキュリティ検証の業務を行なう法人。

CSSC:<http://www.css-center.or.jp/index.html>

※2:2019年1月にマイアミビーチで開催された米Digital Bond社主催の制御システムセキュリティの会議。制御システムセキュリティに関する最先端の技術や攻撃の解説などが行われた。

Digital Bond:<https://www.digitalbond.com/>

S4x19:<https://s4xevents.com/>

以上

プレスリリースの内容は発表時のものです。

商品の販売終了や、組織の変更等により、最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。